



2020年4月1日よりアルカリフォスファターゼ（以下：ALP）と乳酸デヒドロゲナーゼ（以下：LD）の測定法が変わります。

～変更の経緯～

現在検査部では、ALP活性測定、LD活性測定には、日本臨床化学会（JSCC）が提示したJSCC常用基準法を採用しております。JSCC法は国内で99%以上の施設で採用されている一方、日本を除く世界各国においては国際臨床化学連合（以下：IFCC）が定めるIFCC基準測定操作法に準じて測定が行われており、IFCC法が国際的にスタンダードな測定法となっています。

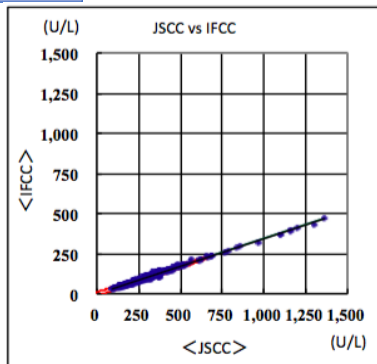
国内の測定値を治験含め国際的に利用するため、JSCCでは日本でもIFCC法でALP、LDを測定することを決定、2020年4月1日より準備の整った施設から変更を開始し、2021年3月31日までの約1年間で切り替え達成を目標に掲げています。検査部でも2020年4月1日からの切り替えに向け、準備を進めています。

出典：「日本臨床化学会ホームページ」

JSCC法からIFCC法になると測定値はどうなるの？



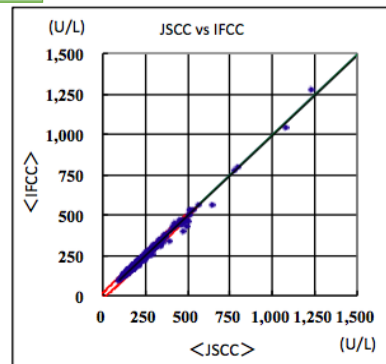
ALP測定値



回帰式： $y = 0.35x - 2.16$
 相関係数： $r = 0.995$
 N = 462

→ 現行法の約1/3に

LD測定値



回帰式： $y = 1.00x - 1.96$
 相関係数： $r = 0.997$
 N = 415

→ 現行法と変わりなし

<変更後の運用>

ALPについては測定値が現行法の1/3になり、急な変更では混乱をきたす可能性があります。よって、IFCC法での測定値を「ALP_IFCC」として報告、現在のALP報告欄に「ALP_JSCC（換算値）」を併記することにしてあります。併記期間は1年程度を予定しております。

LDについては測定法が変わっても、検査値に大きな影響はありません。名称のみ「LD_IFCC」に変更します。

* ALP、LD共に各種アインザイムとの反応性がJSCC法、IFCC法で異なる場合もあります。ご不明な点がございましたら、検査部生化学・免疫検査室（内線：7380）にお問い合わせ下さい。